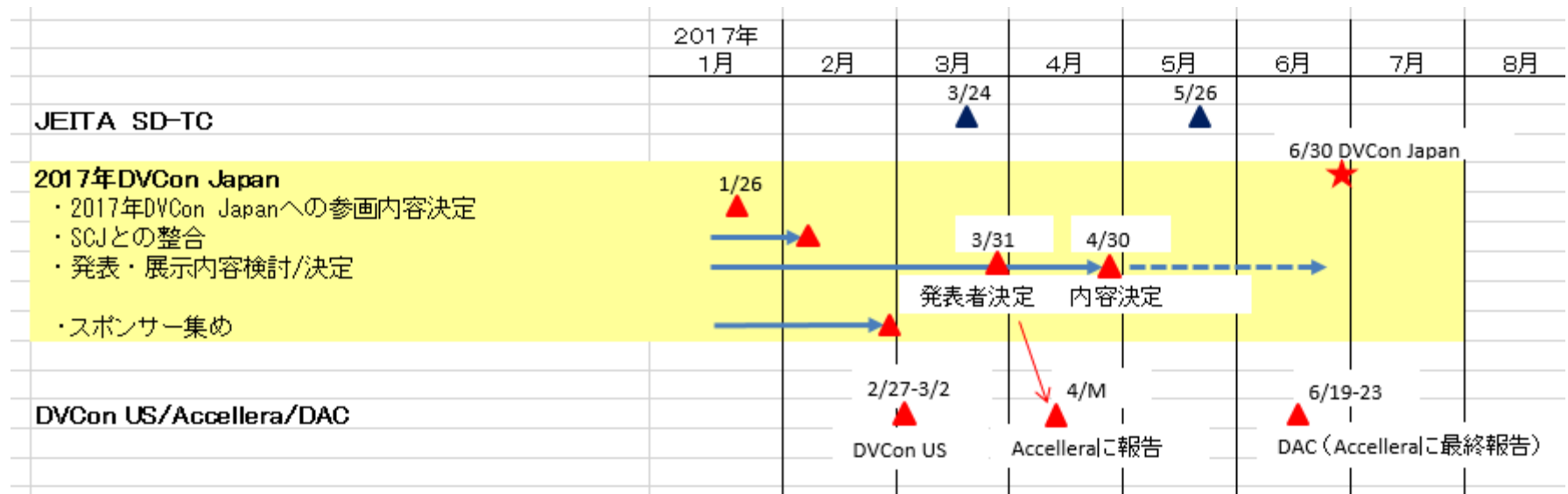


DVCon Japan 2017

全体振り返り

2017/8/2

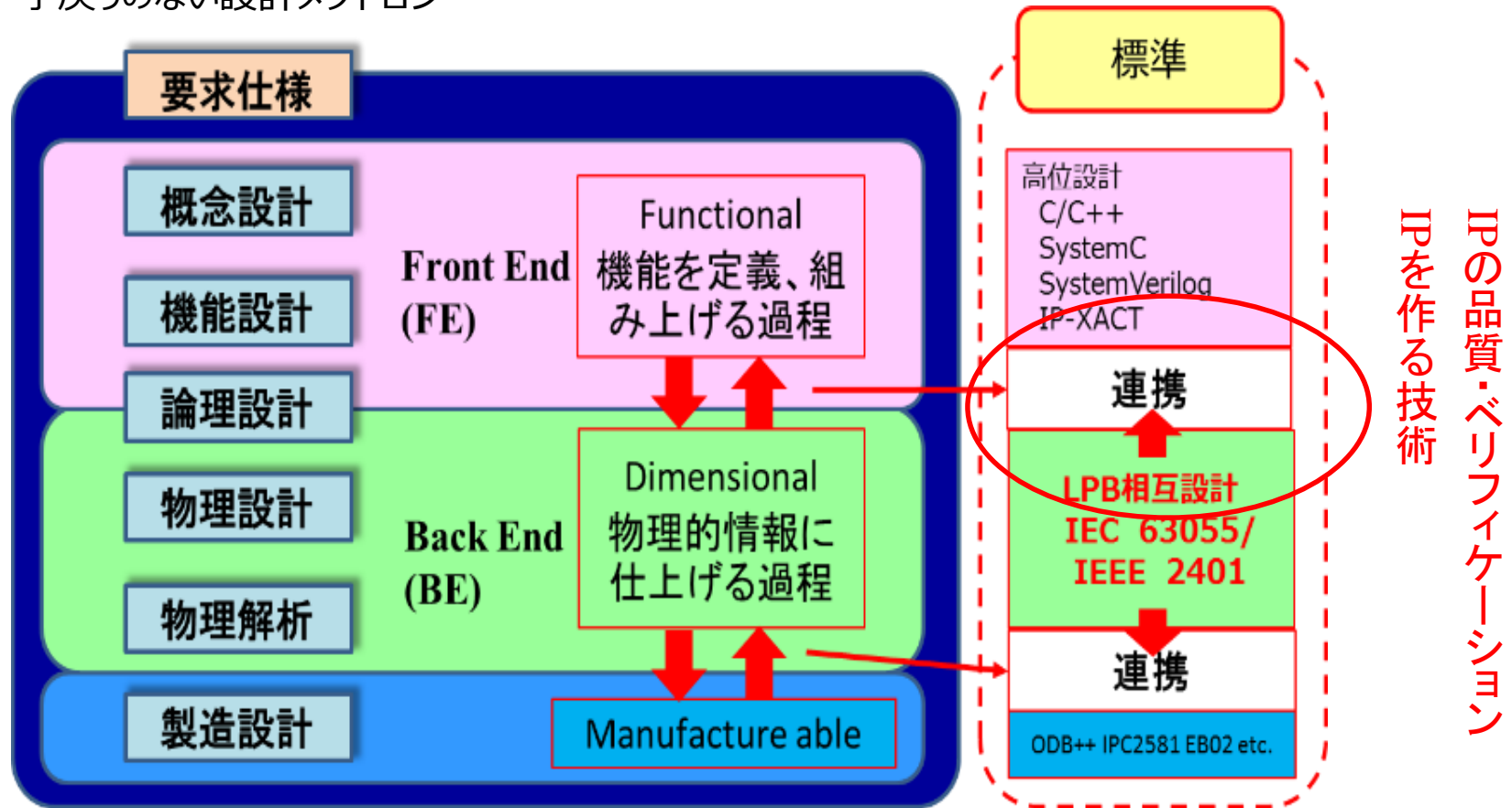
2017年DVCon Japanに向けての活動計画



LPBトラックにおけるコンセプト

キーワードはシステム

- ・高位設計（ファンクション）とLPB（フィジカル）の連携
- ・システム開発における設計メソドロジー
- ・手戻りのない設計メソドロジー



LPBトラック プログラム

- 10:40-11:50 **基調講演** : IoT、車載におけるフロントローディング型設計
・IoT時代の設計手法 大阪大学 今井名誉教授
・車載製品の企画・構想段階における仮想開発手法 デンソー様
- 11:50-12:50 **昼食**
- 12:50-13:20 **ワークショップ** : システム品質を上流で押えるための課題
～困りごと・悩みを聞いてください～
- 13:20-13:50 **スポンサー1** : ANSYS様
- 14:00-14:30 **スポンサー2** : JEITA(ジェムデザイン様)
- 14:30-15:00 **休憩**
- 15:00-15:30 **スポンサー3** : 図研様
- 15:30-16:10 **ポスター展示** : アンシス様、図研様、ジェム様、メンター様、JEITA
- 16:20-17:30 **パネルディスカッション** : システム品質向上のための連携
～悩みに対する答えを探そう！～

LPBトラック座席数:90席

	LPBトラック セッション	申込み
10:40-11:20(LPB.max110)	基調講演	109
11:20-11:50		
12:50-13:20(LPB.max110)	ワークショップ	106
13:20-14:00	アンシス様	82
14:00-14:30	JEITA (ジェムデザイン様)	91
15:00-15:30(LPB.max110)	図研様	102
15:30-16:10(Veri.max170)	ポスター展示	39
16:20-16:50	パネルディスカッション	94
16:50-17:30		

全体振り返り

■良かった点

- LPB会場準備席数90席に対して、セッションによっては申込み数100名を超える参加があり、立ち見状態の場合もあり、関心度の高さを感じた。
- 全体的にはLPBトラックとしてのコンセプトをベースとした発表に対して賛同いただける意見も多数あり、今回のDVCon Japanという冠でのLPBトラックとしての参加は意義があり、目的を達成することができた。
- 毛色が違った方の参加があって良かった。
- LPBそのものに対する期待としても新たな展開ができた。

• 事前アンケート

資料作成の際に来場者の期待がわかり、とても助かりました。

全体振り返り

■反省点

- あとにつなげるための今後の進め方についての対応が必要。
→ ワークショップ、パネルディスカッションで抽出・議論した課題の対応
- システム側で L P Bトラックに行きたい人はどれくらいいたのか、あるいは L P B側からシステム側に興味をもった人がどれくらいいたのかが、読み取れなかった。
→事前・当日アンケートでの問いの工夫が必要。
- 会場の反応がわかりつらかった ワークショップ 会場との一体感が必要。
- LPBメンバが SystemC/Verification トラックメンバと議論が少なかったのが反省点
- SystemC側との連携
→まだまだ距離がある感じがしていますが、全体の賑わいを考えて、一緒にやっていくのが良いと思います。
- LPBトラックは、SystemCとVerificationトラックとはまったくつながりが無い感じが強く、DVconの中で独立した1トラックとしてまったく別で今後も実施するのか、何か協調していくのか考える必要があると思いました。
- まだまだSystemC側との距離を感じますが、こういう場が無いと距離も縮まらないし、こういう場があることが今は重要だと思しますので、来年度以降も参加で良いと思います。
- SystemCおよびVerificationトラックのキーマン交えてのDVCon Jpan全体の振り返りを行う必要がある。←本日

全体振り返り

■その他

- ・L S I 関連テーマを取り上げてほしいという要望が意外とあった。
- ・今回スポンサーとして協賛いただいたANSYS、図研、ジェムデザイン、ジーダットからも今回の出展・発表については意義があったとの意見であり、来年度も参加したいとの意向を既に示しているスポンサーもいくつかでている。

■会場について

- ・弁当配布場所が後方にあると良かった。
左の前が埋まってしまい、もったいないと思います。
LPB会場でお弁当が足りなくなった。
- ・会場が寒かった。
以前弊社で使ったときもこの点が指摘されていますので、
温度管理はホテルの欠点なのでしょうね。
とにかく会場が寒い！！ 寒すぎです・・・。
- ・トイレ清掃が行き届いていなかった。
手拭きの紙が溢れていました。これもあのホテルの欠点かもしれません。
- ・人の出入りがあるので、配布物は会場入り口に並べておいて、各自持っていくスタイルでも良いかと感じました。あるいは最初は並べておいて、途中入場される人用に、入り口に置いておくのも良い。

今後の進め方

今回のLPBトラックでの課題を議論できるメンバーを集める

<議論メンバー>

- ・今回のDVCon Japan LPBトラック申込み者
- ・大学先生
- ・EDAベンダー

JEITA活動

- ・上流と下流の連携を検討するTGを新設する。

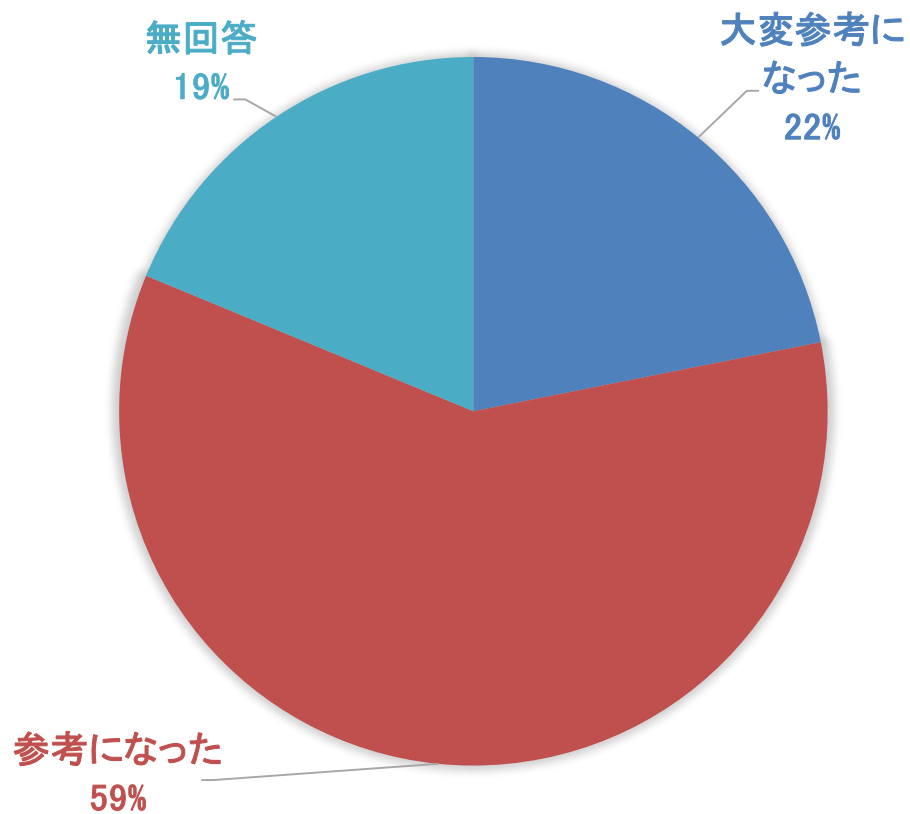
SD-TCでの提案

- ・今回の申込み者リストにメルマガで軽い検討内容を発信する。
- ・募集はSD-TCから正式にかける
- ・DVConワークショップを継続、総括 ← 合宿での議題とする。

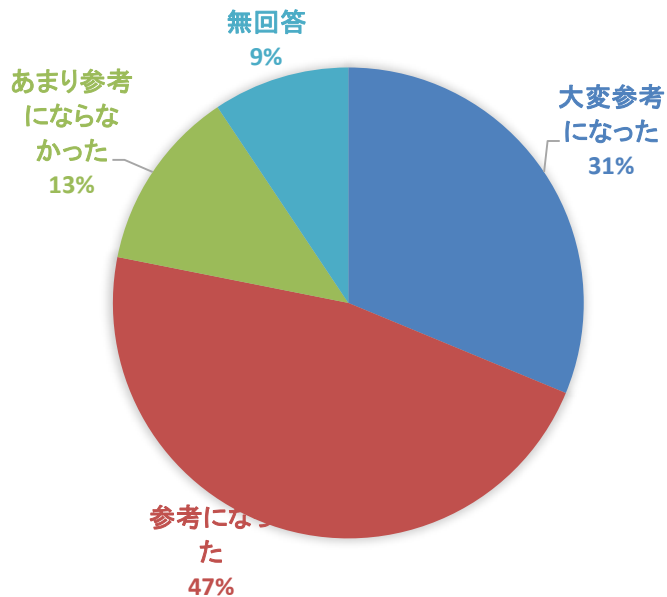
来年度のDVCon Japanに参加するかは、上記内容による。

LPBトラックアンケート結果

Q1 : 本トラック全般について



Q2 : 基調講演 大阪大学 今井名誉教授



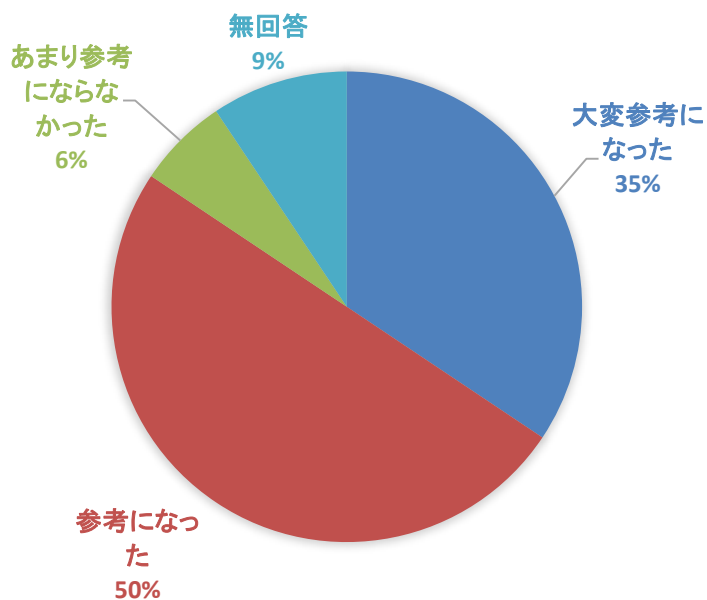
<ご意見>

- ・資料があれば頂きたい。
- ・ムーアの法則の終焉とIoTとの関係が良くわかりました。
- ・俯瞰が分かりやすかったです。
- ・エレベータの話はどことつながりがあったのか、次回話を聞きたい。
- ・IPが今後とても重要であることが理解できた。IP流通の課題と対策について今後議論させて頂きたい。

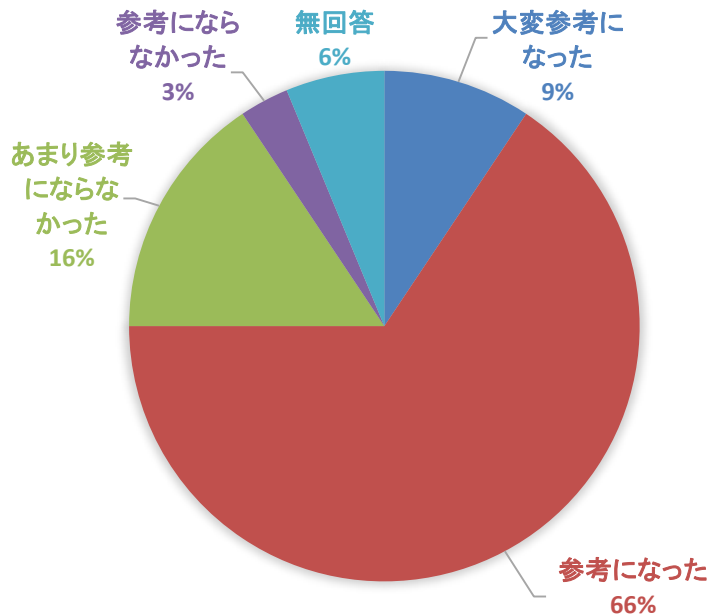
Q3 : 基調講演 デンソー 荒井様

<ご意見>

- ・発表者の発声がこもる。語尾が不鮮明で聞き取りにくかった。
- ・資料があれば頂きたい。
- ・車載システムの設計手法が良くわかりました。
- ・実例の発表は有意義でした。
- ・誤差に対するトレラント、判断基準の考え方が知りたかった。
- ・ハード、ソフト、メカなど部門間の調整などが大変そうであるが、その辺の話を聞いてみたかった。
- ・アイデアから仮想検証を進めた場合の次工程への判断はどのように実施しているのか。
←質問/回答あったため削除
- ・車載用件の制約などをいかに初期段階に組み入れ、下流と結び付けていくか今後議論したい。



Q4 : ワークショップについて

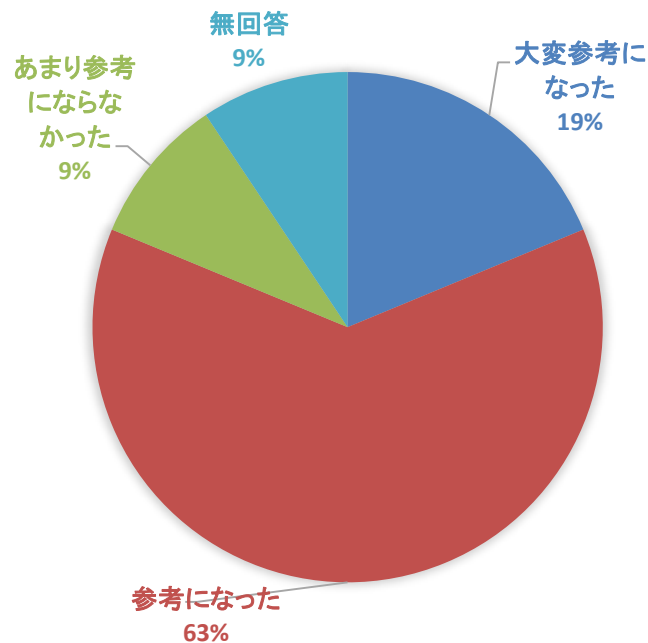


<ご意見>

- ・ワークショップで表示していただいた資料を問題なければ頂きたいです。
- ・資料があれば頂きたい。
- ・課題の整理
- ・システムの設計においても、チームで仕事をする際によく問題となることが問題となっていることが理解でき、有意義でした。
- ・会場からのヒアリングは良かった。
- ・もう少し時間が欲しかった。課題のキーワードからふかぼりしてもよかったかと思えます。
- ・下流の設計担当が商品企画から入り込める仕組みを作ることが有効。コミュニケーションが重要。
- ・発表資料を希望します。
- ・LPBとシステム設計の間にどんなissueがあるのか。いくつか話をきくことがみえて、全体がみえてきた感じがした。
- ・手書きの資料が欲しい。 oishi@tjsys.co.jp
- ・発熱の影響を見たいのであればVHDL-AMSが適切ではないか？ SystemCだとAMSが欲しくなる。
- ・まとめることはとても難しいが、優先順位を決めて解決していきたい。古いかもしれないが、下流設計者のつぶやきはSNSを使ってデータベースにしても良いかなと思った。

Q5 : ANSYS様 講演について

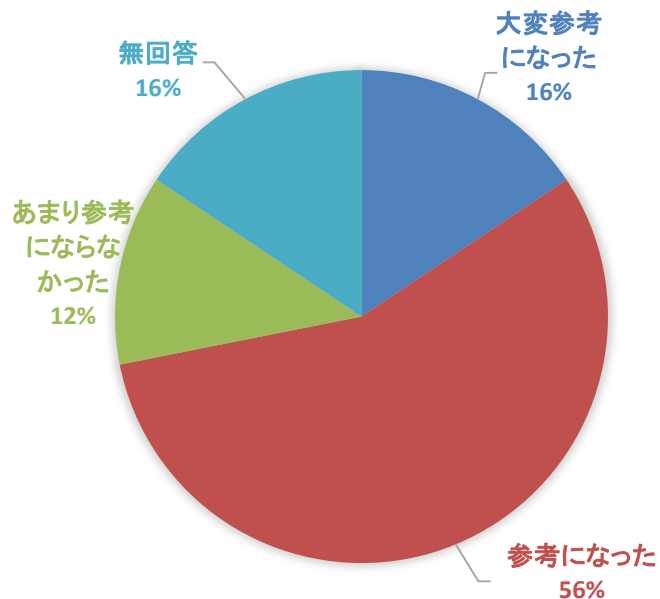
<ご意見>



- ・自社の枠を超えて全体像を解説されたので。
- ・資料があれば頂きたい。
- ・自動運転システムを設計する際などに必要となる解析の手法について、良くわかりました。
- ・CSMを是非デバイスメーカーに普及させてください。
- ・IDCAEは抽象度を上げる?(下げる?)して、システムからコンポーネントまで一貫通貫で相互作用をみていこうというのが出来ていて素晴らしいと思いました。システムのSimはいろいろとねらいがあると思われるのでいろいろと事例がみたかった。紹介して欲しい。
- ・インターフェイスの規格を全分野に広げ推進して頂きたい。

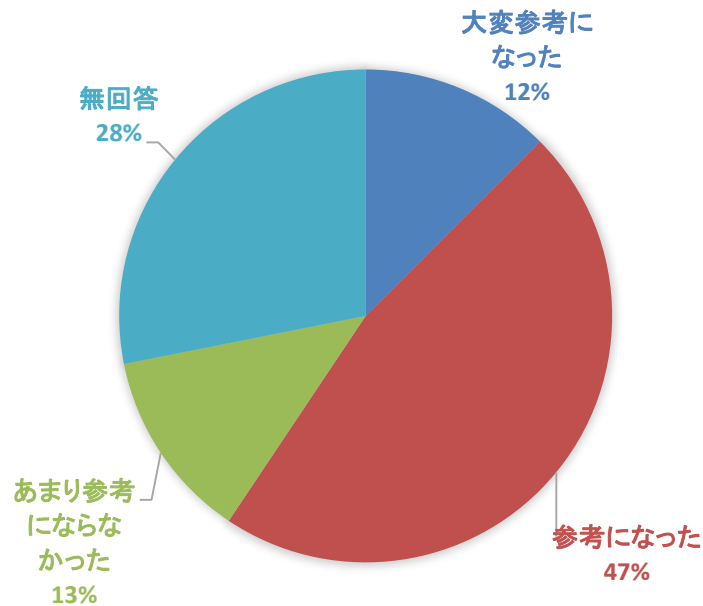
Q6 : JEITA(ジェムデザイン様) 講演について

<ご意見>



- ・LPBフォーマット制定の流れが解説されたので。
- ・資料があれば頂きたい。
- ・LPBフォーマットの利点、ありうる使い方が良くわかりました。
- ・テストシステムのボード設計に使ってみたい。
- ・協調はセットが主導すべきというのがとても心にのこるメッセージとして、構想設計とは何をつくるのか、決めることだと思います。最悪つくるのをやめるという判断までもセットメーカーならできます。ありえます。
- ・ご提案のビジネスモデルはとても重要と感じた。

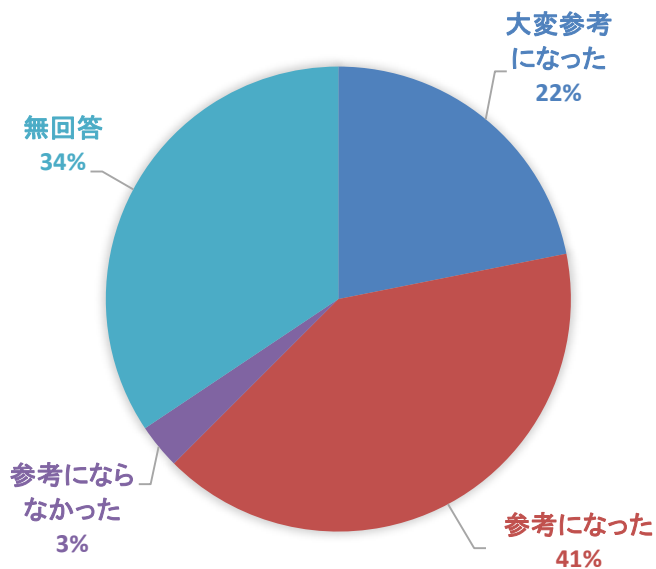
Q7 : 図研様 講演について



<ご意見>

- ・資料があれば頂きたい。
- ・System Plannerの機能を理解できました。
- ・下流で気になるところが網羅的に挙げられていたと思います。
- ・失敗/成功事例の積み上げがとても重要と感じた。

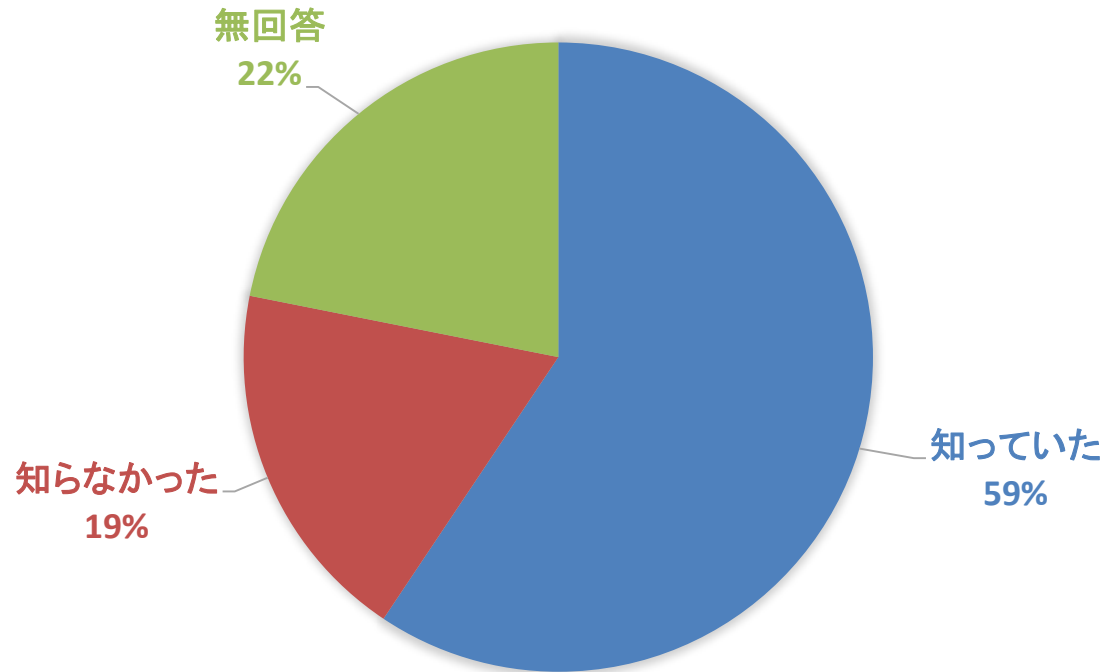
Q8 : パネルディスカッションについて



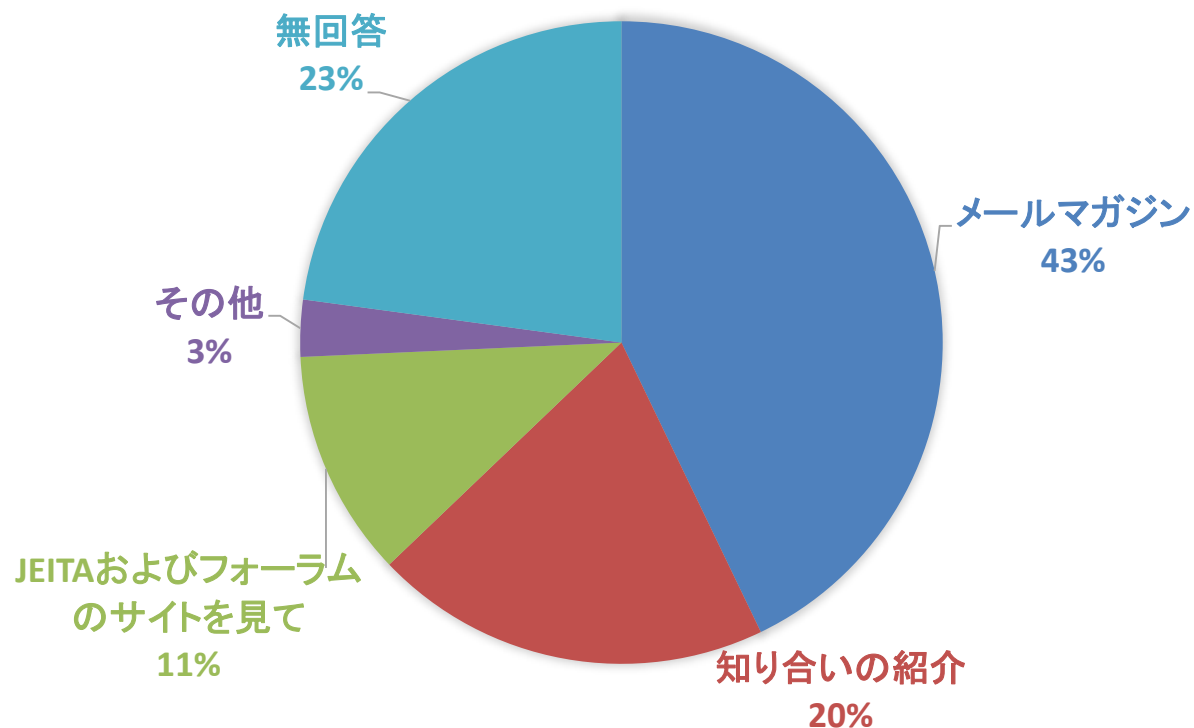
<ご意見>

- ・資料があれば頂きたい。
- ・多様な意見を持つ方々が議論する姿を見ることができ、有意義でした。
- ・Position talkが途中で入ると間伸び感あり。
- ・あまり段取りが良くなかった。ディスカッションの時間が短い。
- ・今井先生をはじめ、とても示唆に富んでいて大変参考になりました。大脳にとっても良い刺激をあたえてもらいました。
- ・もう少し議論の中心を絞った方が良いかもしれない(2回目以降)。1回目としてはとても良かった。

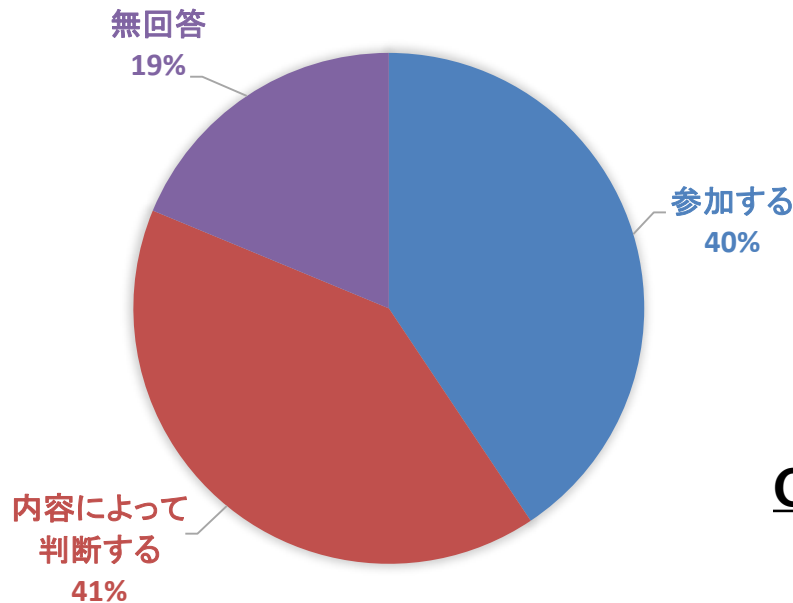
Q9 : JEITAのLPB活動についてご存知でしたか？



Q10 : 本トラックはどこで知りましたか？



Q11 : 次回も参加したいですか？



Q12: 次回何をとり上げて欲しいですか？

- ・LSI設計の視点から見たLPB協調設計に着目してほしいです。
- ・何でもよい。
- ・整理された課題のソリューション事例
- ・LSIをくわしく
- ・今回はLSIの方の発表が少なかったかと思いました。
- ・ワークショップを強化してほしい。
- ・装置の小型高密度化とコスト低減を実証する。SI/PI/熱?ESDの閾値の設定を判断。特に新規開発の上流工程の場合。
- ・LPB領域もSWの知識を取り入れたディスカッションをしてほしい。
- ・理想の設計フローはどうあるべきか。どのように今後しないといけないかなどを取り上げ欲しい。

Q13: JEITAへの期待。自由記述。

- ・全世界標準化をお願いします。
- ・メカも加えたい
- ・デンソー様の発表が興味深かったです。
- ・Systemlevelへの展開
- ・システム設計の最適プロセス、エンジニアリング解析とか。